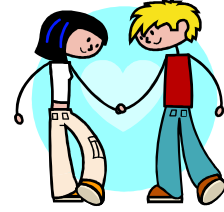


第19号

人権協だより

平成23年1月18日

発行 内部地区人権教育推進協議会(内部地区市民センター団体事務局内)



内部中学校区人権フォーラム

～伝え合おう・聞き合おう・学び合おう！～ が開催される

去る12月10日、内部小学校体育館を主会場に、内部中学校区人権フォーラムが開催されました。このフォーラムには内部中学校、内部小学校、内部東小学校の児童・生徒のほか、各学校の教職員や人権協役員、学校・園選出委員も参加し盛大に開催されました。

フォーラム参加者は、各学校の枠を超えてグループを作り、各グループごとに、「最近うれしかったこと」、「今、こんなことに困っているんだけど・・・」、ということを発表しあい、グループメンバーの今おかれている状況を理解し合いました。その後、「ちょっと?! それって、おかしいんじゃない?」と思っていることを出し合い、みんなで意見交換していろんな見方や考え方があることを学びました。最後に各グループの代表者がみんなから出された意見や考えをまとめて発表し合いました。

子ども達は「はじめて顔をあわせた仲間が多く、最初はなかなか発言が出にくかったけれど、時間が経つにつれて自分の考えていることを率直に発表出来るようになって大変いい経験でした。」と話していました。



全国中学生人権作文コンテスト三重県大会で

内部中学校生徒の作品が奨励賞を受賞

人権尊重の重要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的に、「第三十回全国中学生人権作文コンテスト」が行われました。この三重県大会で内部中学校3年 園田咲さんの作品がめでたく「奨励賞 津地方法務局長・三重県人権擁護委員連合会長賞」を受賞されましたので紹介します。是非ご一読下さい。

差別について

内部中学校 園田 咲

中学校に入ってから、ペルーの人のお宅を訪れたことがあった。その人はお母さんの知り合いの人で、この日は私たち親子を夕食に招待してくれたのだった。

[裏面につづく]

チャイムを押すと、中からお母さんと同じ歳くらいの女の子が出てきて、「さあ、入って。」と言ってくれた。つん、ときつい香水のにおいがしたけれど、とても明るい人だった。少し緊張しながら中へ入ると、たくさんの人たちが笑顔で迎えてくれた。

その日食べたペルー料理の味は今でもちゃんと憶えている。味のついたお米はすごくおいしかったし、じゃがいもにかけてあったソースはピリッと辛かった。

その後は、名前や年齢を聞かれたりした。スペイン語は全く聞き取れなかったけど、でも表情や手ぶりてだいたい分かるものだ。私はスペイン語を全くしゃべっていないにもかかわらず、たくさん話をしたような気分になっていた。そしてこの日、私はわかったことがある。

たとえ言葉が通じない相手でも、いっしょに笑い合えるということだ。その証拠に私はとても温かい気持ちになっていた。

「言葉の通じない人とは話が出来ない。」そんな固定観念は捨てることができた。

言葉がちがう、文化がちがう。いろんな違いを見つけては、私は相手に対して大きくて厚い壁をつくっているように思える。

それは外国籍の人にたいしてだけでなく、友達にたいしてもそうしているように思える。全く同じ考えを持つ人間なんているはずがないのに。自分と違う考えを持つ人を敬遠してみたり、自分の考えを無理に相手に合わせてみたり、もしかすると、みんな同化してしまえば争いもすれちがいもなくなると思いこんでいるかもしれない。

でも、そんなことはまちがっていて、話をするのに自分を押し込めたりする必要はないのだ。相手のことが理解できなかったとしても、相手との間に大きな壁をつくりあげることはないのだ。理解することはできなくても知ることができる。

全部を理解するなんてすごくすごく難しいというより無理な話だから、いろんな考えを持つ人がいて、人それぞれの正しさや優しさがあるということを知っているだけでいいと思う。たとえそれが受け入れられなかったとしてもだ。

「外国人はマナーが悪い」そんな言葉を聞くことがあるけど、やはりこれも差別の一つだと思う。「外国人」とはいったい誰のことを指しているのだろう。

ゴミ出しのルールを守らない人は本当に外国の人？いや、そうじゃないはず。そんなことを分かっているのにルールを守らない日本人より外国の人にばかり目がいて、あげくの果てにはマナーが悪いのは外国人ばかりだ。という考えに行き着いてしまうのはきつと、壁を感じているからだと思う。思い込めば思い込むほどその壁は厚くなって、向こう側を完全に見えなくしてしまう。それ以上相手を見ることができないのだから相手のことを決めつけて、そこから一歩も動けなくなる。相手に近寄ることも、相手の別の面を垣間見ることもできなくなる。何も知らないのに何も知ろうとしなくなる。

やはり、マナーが悪いのと、外国人だということはイコールで結ばれないのだ。すごく親切な人もいれば、意地悪な人がいたり、面白い人がいたり・・・。つまり国籍と人格は全く関係ないということだ。

では人と人との間の壁をなくすにはどうすればいいのだろう。

自分との違いを感じるから隔たりを感じてしまうわけだけれど、ちがいをなくすのではなく、ちがってもいいじゃないかという気持ちを持つことで、相手にぐっと近づけるんじゃないかと思う。相手を尊敬する気持ちが あれば、国籍で人の性格を決めたり、壁を作って自分から遠ざけてしまうこともなくなると思う。

私が今言えることは、自分と相手の間に壁をなくすためには、ちがいをなくすのではなく、ちがいを知ることだと思う。どんな文化を持っていても、どんな言葉を使っているとしても、その人はその人だ。そのことを知っていればいいと思う。

